

イラガ

庭木の手入れ中、葉の裏についているのを知らずに触れてしまうと猛烈な痛みが走ります。



庭木にいたヒロヘリアオイラガ（宮前区野川・7月）

この虫 ワンポイント

- 幼虫は毒棘あり
- 触れると激痛
- 幼虫は夏から秋に発生
- まゆで越冬

人体に害あり

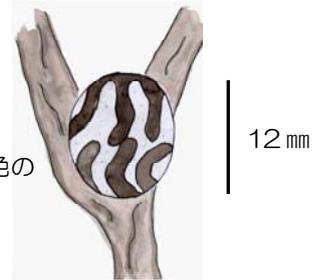
● 形態

- ・幼虫は太くて短い、ナマコのような大型。体長は約 24 mm。
- ・体色は黄緑色で、褐色や青色の縦帯があり、全身に棘が生えています。
- ・成虫は体長 16～18 mm。

● 生態

- ・通常年 1 回、時には年 2 回発生します。
- ・幼虫は夏から秋に現れ、特に 9 月に多く見られます。カキ・ウメ・ナシ・サクラなどの樹木に多く発生し、葉の裏側に大量に生息していることが多く、これらの樹木を加害します。
- ・特徴のある縦縞模様の硬い卵状のまゆを作って越冬します。

イラガのまゆ
灰白地に茶色の
縦縞模様



● 被害

- ・幼虫は毒棘を持っており、触れると感電したような衝撃的な痛みを感じ、赤く腫れます。しかし、痛みは長く続かず、数日で治まることが多いです。（ドクガ類は 2～3 週間）
- ・成虫は無毒です。

● 刺されたら

- ・粘着テープを貼って毒棘を除去します。そして、流水でよく洗い流し、抗ヒスタミン軟膏（かゆみ止め）を塗ります。
- ・症状がひどい場合は、医療機関を受診しましょう。

● 駆除するには

- ・幼虫を葉ごと摘み取って、捕まえます。発生が多いときは、有機リン系殺虫剤の乳剤などを散布します。

● 発生を予防するには

- ・冬に庭木の枝などをよく調べて、まゆを取り除けば発生を減らすことができます。

相談事例

庭木に見たことがない毛虫がいた。刺されて痛かった!

